

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1198 号	氏名	上木 望
学 位 審 査 委 員	主 査 光武 範吏 副 査 中尾 一彦 副 査 江口 晋		
論文審査の結果の要旨			
1 研究目的の評価 本研究は、食道扁平上皮癌が正常組織から前癌病変、癌へと発生・進展する過程を、ゲノム不安定性を指標とした分子病理学的な診断手法を確立しようとしたものであり、その目的は十分に妥当である。			
2 研究手法に関する評価 本研究では、正常扁平上皮組織、低異型度上皮内腫瘍、高異型度上皮内腫瘍、上皮内癌、扁平上皮癌表層、扁平上皮癌深層（浸潤先進部）と進行度を細かに分類した組織を用意し、P53 免疫組織化学染色、53BP1 と Ki-67 に関しては蛍光二重免疫組織染色を行い、上記目的を達成するための手法としては的確なものであった。			
3 解析・考察の評価 53BP1 のフォーカスについての評価を安定型、明瞭なフォーカス形成型（NF）、大型フォーカス型（LF）に分類して解析を行った結果、NF、NF/Ki-67 二重陽性、LF とともに正常細胞から癌表層まで進展に伴って有意に陽性率が増加したという結果であった。さらに、NF は正常と低異型度上皮内腫瘍の間に、LF は低異型度上皮内腫瘍と高異型度上皮内腫瘍の間に有意な差を認めており、解析するフォーカスの型によって診断目的を分けることが出来ることが示唆された。この研究によって、食道上皮が癌へと進展する際にゲノム不安定性が段階的に増加することが示唆された。			
以上のように、本論文は食道癌における新たな分子診断法の開発に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。			